

みやぎNPO夢ファンド(1)人材育成支援プログラム
平成16年度助成事業 最終報告書

2005年3月3日

団体名	特定非営利活動法人 宮城県断酒会
事業名	自助グループのための組織運営研修事業
連絡担当者お名前(ふりがな)	小浜 耕治(こはま こうじ)
担当者 電話/FAX	022-267-6276
E-Mail	ardonguri@yahoo.co.jp
<p>助成金を使って行った研修事業について、具体的にご記入ください。 (事業の様子の写真や、関連資料などありましたら、あわせてお送りください)</p> <p>断酒会には「指針と規範」という素晴らしいマニュアルがある。例会参加の意義を示した「指針」、運営にあたっての「規範」という本質的な2点をわかりやすく具体例とともに示した、他の市民活動団体に対しても誇りうる、優れたものである。困ったことがあったとき、「指針と規範」に立ち返って困難を乗り越えた経験をお持ちの方も多いのではないだろうか。</p> <p>優れたマニュアルは、これを必要とする人を試す。原理原則を理解していても、現在の状況に合った実践を行なえるかどうかは、現にその運営を担っている人にかかっている。また、組織が大きくなると、個人の努力だけでは収まらない、チーム力を要求されるようになる。今の私たちに求められている組織運営とはどのようなものなのか？現在抱えている課題とはどういうもので、どのようにすれば解決に向かうことができるのか？それぞれが感じていることを出し合って、共に協力し合ってその答えを見つけてゆく。またその過程を共有してゆこうというわけだ。「指針と規範」の精神を根幹に持ちつつ、よりよい運営を皆で具体的に模索する場を設けてみた。</p> <p>「自助グループのためのマネジメント講座」の開催(2004年7月10日~8月28日)</p> <p>講師：加藤哲夫さん 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事</p> <p>第1回 ミーティングを息長〜く続ける 7月10日(土) 10:00~16:00 仙台市民会館 第2教養室 参加者：15名(宮城県断酒会14名、その他自助グループ1名)</p> <p>第2回 事業をゆるぎなく！進める 7月31日(土) 10:00~16:00 仙台市市民活動サポートセンター セミナーホール 参加者：16名(宮城県断酒会14名、朋友断酒会1名、その他自助グループ1名)</p> <p>第3回 助けを求める!!! 2004年8月28日(土) 10:00~16:00 みやぎNPOプラザ 第1会議室 参加者：14名(宮城県断酒会10名、朋友断酒会2名、その他自助グループ2名)</p>	

助成金を使って行った研修事業について、ご記入ください。(続き)

講座の内容

講座は講師のレクチャーを聞く一方的なものではなく、参加者が現在抱える問題や悩みなどを出し合い、協力して課題解決へ向けて議論するという、ワークショップ形式で行なわれた。以下は全3回の概要である。

第1回

参加者自己紹介

語り尽くしているようでお互い知らなかった、仲間の素顔が垣間見えた。

例会・ミーティング運営について

どのような問題を感じているかを出し合い、記録してゆく。

記録された問題点を発表し、整理して共通する課題を抽出した。

その後、以下の4つの課題について対策を議論した。

役割が固定化しない、多くの人が運営に参画できる体制とは？

家族も参加し、本音も言える例会作りとは？

新しい人が定着しやすい例会とは？

施設入所者にとっての例会の意義とは？

具体的な対策など、多くの提案が出された。これらは今後の例会運営のあり方を考える素材として活用できる。

第2回

事業の課題

Campus どんぐりのような施設運営、行事の企画運営など、例会以外の活動の場面で生じている「悩み」について、具体的に挙げながら、前回と同様に整理・議論した。

プライバシー・スタッフのケアについて

プライバシーを守ることは、スタッフとして必要なこと・例会参加者として必要なことなど様々な立場で求められることである。改めてその意味をふりかえり、徹底するためにできることを考えた。

第3回

関係のある団体を図示する

会とかかわりのある機関(医療、行政、NPO、地域)などをあげ、それぞれがどういう関係にあるのか、図示しました。また、それぞれの機関とどのようなつながりを持っているのか、具体的に書き出してみた。

自助グループとはどのような存在なのか？

加藤さんから、行政・医療の特徴や、対等なパートナーシップを結ぶ上で考慮すべきこと＝自分たちの価値を知ることについて、レクチャーを受けた。

どんな関係を作れるか？

具体的に、今関係している機関と、その関係をどのような方法で良好なものにしてゆけるかを考えた。

東北ブロック研修会にて講座内容を報告(9月18日)

東北ブロック研修会は、全日本断酒連盟・東北断酒連合会が主催し、宮城県断酒会が主管する酒害からの回復のための研修会で、東北各県から200名もの断酒会会員が集まった。研修会の冒頭で今回の取り組みを紹介し、内容を説明した資料を配布した。会の運営に関する悩みはどこの断酒会でも共通して持っている様で、興味深く聞いていただけた。今後事業を継続することで、東北地方のネットワークの強化につながられるのではないかと感じた。

<p>当初の成果目標はどの程度達成できましたか。当初目標と比較して記入してください。</p>	
<p>申請書に記載した成果目標</p> <p>例会所担当者に、後進に引き継げるマニュアルを作成し、役割を分担しやすくする。</p> <p>研修会の成果を元に「指針と規範」を補完するプライバシー規定を策定する。</p> <p>仕事の全体像を図解など可視化し、共通のツールをもとに自分の行っているものの意味を説明し合えるようにする。お助けマニュアルを作成する。</p> <p>説明するツール（パンフレットなど）を作成する。</p> <p>受講者の中から断酒会以外で相談に乗ってくれる人材を見つける。AAのスポンサーシップ（他地域のメンバーがスーパーバイズする制度）を異なる依存症間で行える関係づくりをする。</p> <p>講座で成功事例を持ち寄り、作戦を立てる。研修会で継続的にコミュニケーションすることで、より顔の見える関係を作り、互いに人の行き来がしやすいようにする。</p> <p>自分がどういう部分で活躍できるか、何に向いているかを講座の各部分から見つけてもらう。</p>	<p>目標の達成度・団体に与えた効果</p> <p>具体的な例会運営マニュアル・プライバシー規定・運営マニュアル・パンフレットの作成には至っていない。</p> <p>スポンサーシップ制度へ向けての具体的な動きはないが、他団体メンバーとのより顔の見える関係づくりが行えた。</p> <p>例会運営や事業運営についての課題が明らかになり、例会所で抱えている問題がどういふものかが見えやすくなった。そのため担当者間のコミュニケーションがはかりやすくなった。</p> <p>職員が主体的に業務に取り組むようになった。具体的な個人目標の設定などには至っていない。</p>
<p>達成できない部分があった場合には、考えられる原因や、解決に向けて必要なことをお書きください。</p> <p>今回、断酒会として始めて「マネジメント講座」という形で、より良い団体運営に関する人材育成講座を行ないました。いったい何をするのか？今の断酒会にどう必要なのか？というような、初めての試みには物物の疑問が多く残る中、理事長・副理事長などの呼びかけで、なんとか会の活動を主体的に進めているメンバーが参加することとなった。一旦始まってしまうと運営上日々感じている様々な課題が浮かび上がったが、これらから成果目標にあげたようなマニュアルや団体概要パンフレットなどの作成に至るだけの余裕はなかった。講座終了後も、成果をどう活かすかという点でのミーティングを開く余裕が生まれなかった。</p> <p>今回の講座開催は、組織の一部の者が設定をしまとめるという形でしか遂行できなかった。現在の宮城県断酒会組織の課題がここにも現れている。同様の内容の講座を来年度にも継続するため、これを遂行する理事会とは別のチーム作りから始める必要がある。</p>	

今回の事業を、今後どのように展開していきますか
また、その際に必要なものは何ですか

再度、同様の講座を開催する。
その際、今回の講座参加者により担当チームを立ち上げ、企画からマネジメント講座の内容を意識して行動する。言わばオンザジョブトレーニングから、人材育成を始める形を取る。また、今度は各理事が目標設定をし、組織運営のスキルをつけてもらいたい者に参加を依頼するというような、既存の組織体制を十分に活用した方法を取って行く。

他団体が参加する意義が大きいことが実感できたため、より強力に広報し、他の依存症グループの参加を促す。今回の参加者の協力を仰ぐことで、具体的な連携の機会を増やし、ネットワーク強化に役立てる。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
みやぎNPO夢ファンド助成金	150,000円	150,000円	
参加費	81,000円	24,500円	
団体負担金		26,197円	
合計	231,000円	200,697円	

支出の部

項目	予算（円）	決算（円）	備考
講師謝金	90,000円	150,000円	
講師交通費	63,000円	-	県内講師のため支出せず
講師宿泊費	30,000円	-	同上
事務局員交通費	16,000円	20,000円	
通信費	4,000円	4,000円	
会場費	21,000円	14,000円	
消耗品費	7,000円	12,697円	茶菓・印刷費・文房具等
合計	231,000円	200,697円	